

あやしむら

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所> あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 0569-72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 0569-35-2861

クロスメディアを総合力でプロデュースする

PTC GROUP

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525(代) FAX 0569-29-4500
<http://www.handa-cp.co.jp>



新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職 —自分ドラマつくろう— (103) 岡田 清治



■プロフィール

著者: 岡田 清治 (おかだ・せいじ)

1942年生まれ ジャーナリスト(編集プロダクション・NET108代表)

著書に『高野山開創千二百年 いっぽんさん行状記』『心の遺言』

『あなたは社員の全能力を引き出せますか』『リヨンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を下記のFAXかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。

FAX: 0569-34-7971 メール:takamitsu@akai-shinbunten.net



写真)木々も自然の暴風に耐えている(著者撮影)

姪の就職2

翌日、旅館前の青井阿蘇神社へ白壁の建物が並ぶ鍛冶屋町通りのみそ・しょうゆの釜田醸造所で工場見学をして、みせんべいを買いました。次に向かったのが人吉城跡の公園で球磨川を見下ろしながら昨晩、残りの釜めしで握つてもらつたおにぎりを食べました。心地いい涼風を受けながら、おいしくいただきました。

当日の日記にこのように記していました。
東屋の椅子に座つて、り子と会話をしながら、久しぶりにのんびりと時間の経過を感じさせて、かつての思い出に酔いしました。

「考えてみると、僕の出身の大坂は町人、熊本は武家社会、本来、なかなか合わないので、離婚もせずによくやつてきたな」

「いまは、そういう意識はないでしょう」「意識はないかも知れないが、DNAは連続と続いているよ」

「それでも、熊本県人は長寿だね」

「そうです」

「やはり水がいいのだよ。阿蘇山の伏流水が熊本全土に流れ、熊本の水はこの地下水を利用している。しかも森が豊かで水にミネラルなど多く含んでいる。都会の水のように化学処理していないから、おいしい水が湧き出ている」

「確かに、都会の水はカルキ除去というか、塩素で処理しているから、嫌なにおいがしますね」

「いまは相当、改善されたと思うが…」

「部下の結婚式に出席するため玉名に来ましたね。なつかしいわ」

「そうだね」

「その当時のことを思い巡らしていた。」

「一〇〇一年春のゴールデンウイークの日曜日の正午。」

「真三は部下のN君の結婚披露宴で熊本県玉名郡天水町の小崎会館にいた。」

「新郎のN君とは不思議な縁があります。今日、このようなお祝いの席に名古屋から参りましたのは、わたくしの女房が玉名の隣町の荒尾出身という関係から新郎と親しく付き合っていたからです」

「真三は祝いのあいさつで立つた。この日の一ヶ月前のある日、N君が私の部屋にやってきた。」

「できちやつた婚として、いまさら結婚式や披露宴もどうかと思っているのですが、親父がどうしてもするというので、アーティスト同意した次第です。それで善支店長には、ぜひ来ていただきたいのです。」

「ご両親は結婚に賛成なんでしょうか？」

「真三は二つ返事で「行きますよ」と、答える前にそれだけを確認した。考えてみれば、子どもが生まれているので少なくとも表面的には反対もなにも、あるわけがない。昔のようにだらしな

いと非難しなくなつた。しかもあとで分かつことは大喜びの風である。

最近の若い夫婦から「子どもなんか、生まれないなんて宣言されて腰を抜かしている親から見れば、なんて親孝行の息子だと思えるに違いない。子は夫婦のかすがいというが、今の世は子どもをつくることが、親を説得する最大の材料の一つでありますように思えるが…」

N君の父親は天水町で洋服屋をやっている愛想のいい明るい人柄である。

N君の父親は親が始めたころは珍しい洋服屋を田舎でやっている理由を披露宴の二次会の会場とつた自宅の居間で話した。部屋の周囲には相撲大会の表彰状の額がいくつも掛けられている。

「兄弟みんな後を継がないと出て行ったものですから、しようがないので残ったのです」

N君の父親は親が始めたころは珍しい洋服

屋を田舎でやっている理由を披露宴の二次会の会場とつた自宅の居間で話した。部屋の周囲には相撲大会の表彰状の額がいくつも掛けられている。

「兄弟みんな後を継がないと出て行ったものですから、しようがないので残ったのです」

N君は玉名が好きか

「はい、いいところです。どこに水がうまいです」

「水ではなくて焼酎ではないのか」

「本当はそうですね」

一同大笑いとなつた。

熊本は沖縄に次いで長寿県(当時)だが、真三はその秘密の二つが水だと思っていて。熊本の上水道はすべて地下水だ。阿蘇のふもとの白川源や、菊池水源の旨い水はこの世の自然水とは思えない。世界中で煮沸しないで水が飲める国はほとんどない。水を手に入りにくい国も少なくない。石油以上に枯渇する危機も報道されており、水戦争が起きてるかもあるくらいだ。

女房のるい子の里は荒尾である。その小袋山のふもとで一人で暮らす女房の九十三歳になる母親が健在なのは水のおかげであろう。それほどうまいし、健康によい。それに反し東京や大阪の水は実にまずい。まずいどころか、塩素殺菌が強く臭くて身体に悪い。このため真三は数年来、生水はミネラルウォーターに切り替えている。

山のふもとで一人で暮らす女房の九十三歳になれる母親が健在なのは水のおかげであろう。それほどうまいし、健康によい。それに反し東京や大阪の水は実にまずい。まずいどころか、塩素殺菌が強く臭くて身体に悪い。このため真三は数年来、生水はミネラルウォーターに切り替えている。

女房のるい子の里は荒尾である。その小袋山のふもとで一人で暮らす女房の九十三歳になれる母親が健在なのは水のおかげであろう。それほどうまいし、健康によい。それに反し東京や大阪の水は実にまずい。まずいどころか、塩素殺菌が強く臭くて身体に悪い。このため真三は数年来、生水はミネラルウォーターに切り替えている。

山のふもとで一人で暮らす女房の九十三歳になれる母親が健在なのは水のおかげであろう。それほどうまいし、健康によい。それに反し東京や大阪の水は実にまずい。まずいどころか、塩素殺菌が強く臭くて身体に悪い。このため真三は数年来、生水はミネラルウォーターに切り替えている。

山のふもとで一人で

